

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に援助指針に掲げ、地域の中の一員として、地域住民と交流する機会を持ち、地域に根付いたその人らしい暮らしを目指している。	法人理念に基づき基本方針を掲げている。新人研修・毎日の引継ぎなどの機会にリーダーより伝えている。グループホームの役割、職員各々の役割・目標を持ち、個々の対応の中で家庭的な雰囲気できめ細やかな対応に心がけている。	基本方針は出来ているが、外部よりの来訪者にホームとしての理念が理解しづらい。地域に密着した理念を現状のケアを踏まえ検討されることを提案したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春の清掃・地区の運動会・地区の新年会・地域交流会へ参加させて頂き、グループホームを理解して頂ければと思っております。	地区の運動会やお祭り、清掃などに職員と入居者の方々が共に参加している。併設の老健で地域住民の方々を招待した夏祭りには地域住民として参加している。職員の働きかけや回覧板を利用して住民の方との「交流会」を企画・開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一回の夏祭り実施時に、利用者の作品展・外出時の写真展示をし、日々のケアについて理解して頂ける様取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回実施しています。日々実践してきたケアの報告と、入居者皆様の様子を報告させて頂いています。又地域の方々から頂いた貴重な意見を参考に日々のケアに取り入れサービス向上に努めています。	二ヶ月に1回運営推進会議を開いている。議題は、その時々の問題点等(行事の件や新型インフルエンザなど)を施設長より提案し話し合いがもたれている。地域の情報も委員の方々から聞き、毎日の生活につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催時、入居者の状況を相談・報告・連絡させて頂いています。	活動報告書を提出する時に、ホームのことや入居者の現状などを話したり、相談したりしている。長期の入院等による空き部屋にショートの利用が可能になり、情報を頂くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関脇に水路がある関係上、常に玄関は施錠してありますが、利用者に接するに当たって、威圧感を持たれない様に、常に見守り・利用者に寄り添うことを忘れず、所在確認を怠ることのないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。玄関の鍵はすぐ横に川があるため家族の理解を得た上で施錠している。身体拘束については職員は弊害を認識しており、ケアの工夫で対処している(ベットを低くしたり、その脇に布団を敷き怪我防止をしたり、見守りの強化など)。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットを参考にし、グループホーム内伝達研修の実施、日々のケアの中で見過ごされることの無い様、全スタッフへの周知を徹底して行うように努めている。		

医療法人博人会 桜グループホーム・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施、検討し全スタッフへの周知を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接時、入所手続きの際、十分に説明し納得して頂いた上、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回の、あんしん相談員訪問時、入居者からの要望を聴取して頂き、運営に反映出来るよう心掛けている。また、玄関スペースへ要望箱を設置し苦情・不満を表せる機会を設けている。	家族会がある。家族より家族同士の繋がりもほしいと言う要望で家族会を開催した。一日の様子を家族の方に見ていただき簡単な認知症の説明などを行った。	2ユニット同士お互いの良いところを取り入れる意味からも、1階として現在お便りの作成はされていないが、2階と同様に家族への近況報告等をつづり、お便りとして出していただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中での問題点などを、解決できるようスタッフ会議を開き、全職員の意見を交換しケアの統一を図っている。	現場職員は日頃感じたこと、提案など主任を通じて話したり、三ヶ月に1回全員参加のモニタリング時に発言している。お互い意見を出しやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給・賞与有り。当日の出勤者各々協力し、勤務時間内で帰宅できるよう努めている。各職員無理の無いよう勤務希望も取り入れるよう調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ISOでの定期的な研修を実施し、法人外の研修も積極的に、参加出来るよう勤務表で調整し多くのスタッフへの、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一回の、グループホーム連絡会へ参加させて頂き、相互の情報交換を行い、より良い情報は、スタッフ会議で意見交換し、サービス向上への取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的な会話から、コミュニケーションを取り、不安・要望などを聞きだす機会を作り、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、入所手続きの際、家族の不安・要望を聞いた上で対処できる方法を検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と充分検討し、必要があれば福祉用具の購入等の支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	援助指針にも含まれているように、常に声掛けをし、入居者各々のペースを尊重し、どんな状態でもやりたいことを支える支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の負担にならない程度に、外出・外泊を依頼し、また一方では、家族の状況に応じて、良いように施設を利用して頂き、家族・本人にとっても良好な家族関係の継続を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限は無いので随時受け入れは行っている。各々の個人情報保護法の内容に基づき、面会記録を記入して頂き、気軽に面会出来る様支援している。	家族の訪問は1週間に1回ぐらいの割合で行われている。また入居者の外出・外泊の支援を積極的に行っている。入居前のお友達が毎日のようにホームへ訪れ関係を維持している入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の生活暦を基に、利用者同士良好な関係が築けるよう職員が仲裁し、トラブルの無いよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの要望があれば、対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活歴を基に、ご本人馴染みの物などを持ち込んで頂き、グループホームでの生活に溶け込めるよう検討している。	生活歴の調査で入居者の以前の生活を把握出来ると考え、家族が訪問した時や、入居者の日々の生活からの会話で知り得た情報をその都度書き足している。耳の聞こえない方には文字で書いて会話したり、表情から読み取ることによりきめ細かいケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接から入所までの情報を、全職員周知の徹底をし統一したケアの実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を中心に、日常生活の観察を実施し、申し送りを継続的に行い、情報交換し状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族からの情報と、入所前の担当CMからの意見等を基に、全職員日々のケアに取り入れていけるようカンファレンス、モニタリングを行っている。	入居時、本人や家族の希望を聞き作成している。三ヶ月に1回全職員参加でモニタリング会議を開き見直しをしている。状況が変化した時、家族より希望があった時などは、随時、家族・所長・責任者で話し合いをして変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護ケース記録には、事細かにありのままのやり取りを簡潔に記入し、誰もが情報を共有できるようにしている。日々のケース記録を中心に、カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難となれば、状態に応じて併設の老人保健施設・居宅介護支援事業所などへ柔軟に支援している。		

医療法人博人会 桜グループホーム・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域支援(大当区運動会への参加) ・防災訓練の実施 ・ボランティアの受入は積極的に行い、民生委員さんを通して、地区の身近な情報収集を行い交流のきっかけ作りを図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々のかかりつけ医師へ、看護師からの情報提供書を必要に応じ作成し、より一層医療との連携が適切に受けられるよう支援しています。	入居前からかかりつけ医として診て頂いた先生が一番本人を理解していると思われることから、原則としてかかりつけ医の変更は行っていない。受診時にはホームより「情報提供書」を出している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置がされている。随時利用者の様子を報告し、急変時には即座に対応出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携あり。入院時には、サマリーを作成し入院生活が安心して過ごせるよう支援し、退院時の状態によってはグループホームでの生活が困難であれば、家族との相談の上、他施設への紹介を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算を取っているため、看取りの指針に沿って、かかりつけ医との連携をもとに、家族への受診依頼等を行い随時状態の変化に対応できるよう準備を行っている。	施設長より入居時の契約説明で看取りは行わないことを伝えている。毎日の生活の中で看取りまでの段階を責任を持って対応するよう心がけている。看取りの指針書に沿って行動している。現状をいかに長く保ち、その人らしい生活がいかに維持出来るかに配慮をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、看護師と相談の上、適切な処置が取れるよう取り組んでいる。1回/年、AED講習会も全職員参加し、対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域の方との防災訓練の実施。災害時の避難経路を目の届く所へ掲示している。	1年に2回の訓練が行われている。夜間想定訓練も、地域住民の方の参加を得て行われている。水害の時は2階へ移動するよう具体的な手順が決められている(数年前水害が起きた地域)。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活暦・生活環境を考慮し言葉掛けや対応を心掛けている。	職員が入居者の生活暦を把握することが重要と考え実行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に開かれた会話を念頭に、言葉掛けには注意し利用者中心のペースでの支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常会話の中から、利用者の希望を聞き取り、家族への協力を求めたり、行事の中へ取り入れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	協力の理容・美容室があり、依頼すれば訪問して下さる。馴染みの理・美容室を希望される場合は、家族への協力をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食作りのみ行っている。昼食レクや誕生会などは、事前に利用者より嗜好調査を行い、メニューに取り入れ買い物から準備まで利用者と一緒にしている。また、1回/週、利用者全員参加の食事作りを実施している。	入居者の方々に前準備をしていただいている。皮をむいたり、切ったり、テーブルの準備など出来ることをやっていただいている。プランターで野菜を作っている。施設長が1週間毎、各ユニットで入居者の方と食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立表を作成し、調理している。また、個々に応じての主食量の調整を行い、摂取量のチェックも実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3回/日毎食後、各々の状況に応じて、介助・声掛けし支援しています。義歯消毒は毎夕食後に実施している。		

医療法人博人会 桜グループホーム・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンをチェック表を基に把握し、時間帯を考慮し、声掛け・トイレへの誘導等実施し、自立支援しています。また最終手段として、家族の了解の上、必要に応じてリハビリパンツ・尿取りパッドの使用をお願いしています。	ほとんどの方が自立で、職員が声掛けを行っている。夜間の心配な方のみポータブルトイレを部屋に置いているため、安心して眠ることが出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を基に、各々の排便パターンを把握し、多目の水分補給・運動・体操を実施し、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3回/週の入浴を実施しています。本人の希望があれば柔軟に対応し、毎日の入浴も可能な限り実施しています。	原則として週三回の入浴としている。個々の希望で毎日入浴する方もいる。また、入浴を嫌う方たちへの対応を個々にしている。散歩から帰りその流れで入浴する方や、併設老健のお風呂を利用したり、季節の菖蒲湯やゆず湯にしたりして工夫を重ねている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルを尊重し、安心して過ごせる場を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は職員が誰でもすぐに確認できるように一覧表を作成。内服薬の変更等も受診記録、申し送り等で徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考に、家事手伝い・散歩・レクリエーションの参加を支援。菜園を作り、花や野菜を植え利用者と共に育て上げ季節感を感じて頂き、収穫の喜びを味わえる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課で屋外散歩を実施している。また希望によって、屋外での日光浴を実施している。気分転換にもなるので、家族にも協力を依頼し、出来るだけ出掛けられる様支援している。グループホームとしての外出・外食行事を計画し実施している。	お天気の良い日は毎日近所を散歩している。雨降りなど天候が悪い時は併設老健の廊下を歩き、足腰のリハビリにしている。「買い物デー」を設け買い物に出かけている。	「買い物デー」が設けられているが回数が多いことから、特別メニューなどでの食材の買出し時に入居者の方も同行し、品物を選んだり買ったりして、楽しむ機会を更に広げていただきたい。

医療法人博人会 桜グループホーム・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚なく紛失してしまう恐れがあるので所持してません。目的を決めてのレクリエーション活動(買い物外出)で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族への手紙のやり取りを、家族協力の基に支援している。希望時は、職員に声を掛けて頂き時間帯も考慮し、家族の了解を得て支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム内あらゆる共用のスペースへ、季節感を視覚で楽しめるように植物・飾り物をレイアウトし、西日のあたる窓には植物を植え、日差しを遮るような工夫をし、窓の外を眺めながら心地よく過ごせるよう配慮している。	2ユニット間でお互い入居者にあつた生活の場作りがされている。レクリエーションで創作した書や押し花の絵作り等が飾られていた。食堂のテーブルのほかにソファが置かれ入居者の思い思いの場所で過ごせるようになっている。庭で育てた花が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、テレビ前にソファや長いすを設置し、コミュニケーションを取り易い空間・スペース作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、家族と相談して制限は無いので、個人の好きな物・使い慣れている物・馴染みの物を持ち込んで頂き、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	それぞれ持ち込み量の違いはあるが、家族の写真や花を飾ったり、職員とともに整理整頓に携わった住みやすい居室作りがされている。部屋の表札はそれぞれ個々に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解力・認知能力に合わせた環境作り・対応を心掛け、一人一人の身体機能に応じて支援し、安全且つ自立した生活が送れるよう支援している。		